

診療報酬改定でパブコメ提出

感染対策は別建て評価を

厚生労働省が1月12日から19日の期間で次期診療報酬改定のパブリックコメント(意見)を募集したことを受け、協会は会員の意見100人分を集約し、同省に提出した。また、小澤理事長長名で意見を表明し、初・再診料本体への施設基準と未届減算を導入しないこと、「か強診」の抜本的見直し——などを要望した。

会員意見の特徴として、新たに導入が予定されている基本診療料への院内感染防止対策に関する施設基準について、届出のない医療機関に対する初・再診料の減算に反対する意見が多数寄せられた。院内感染防止対策については、基本診療料

施設基準の導入について、初・再診料は、基本的な診療行為に対する評価であり院内感染防止対策は含まれていない。医療安全を確保するためのコストは評価に見合っていないと、外環もその一部を補填する程度。①初・再診料への施設基準と

未届減算を導入しないこととの関係は、直接的な関係は無く、特別な施設基準は不要である。ほとんどの患者がかりつけ歯科医を持つなか、実態に合わない「か強診」を要望する。

▽「か強診」での評価の対象である歯周病安定期治療やフッ化物塗布などの処置は日常的な診療行為であり、地域包括ケア

▽(医科への診療情報照会の評価新設について) 医科・歯科連携推進のための情報共有は評価する。ただし、「か強診」(全21項目)

バキューム技術を実習

臨床学部

臨床学部は1月20日、スタッフ向け実習「バキュームテクニック」をとりもも歯科医院(港区)で開催した。富本副理事長と歯科衛生士を講師に16人が参加。バキュームテクニ



クやチェアサイドのアシスタントを学んだ。富本副理事長は、「患者さんが快適に治療を受け、通院してもらうためには、スタッフが楽しくやりがいをもって診療にあたることが大切だ」と説明。実習での積極的な質問を求めた。

参加者は、DVDを視聴し、バキュームの基本操作を学習した。グループごとの実習では、歯科医師役・アシスタント

参加者からは、「一緒にバキュームをもって操作してもらって分かりやすかった」「ドクターを体験して治療部位がどのように見えるか分かった。今後のアシスタントに活かしたい」などの感想が寄せられた。

第48回保団連大会

小澤理事長を保団連理事に選出

協会 技工改善に向け全国的運動を呼びかけ



保団連の全ブロックで技工問題の運動に取り組むことと、協会の活動方針や執行体制などを決める第48回定期大会が1月27、28日、東京都内で開かれ、協会から2人が保団連理事に選出された。寺嶋洋幸理事長の退任に伴って小澤理事長が新たに選出され、兵頭正道理事長が再選された。社会保障と憲法を守る運動に重点を置いた活動方針案が承

全国保険医団体連合会(保団連)の活動方針や執行体制などを決める第48回定期大会が1月27、28日、東京都内で開かれ、協会から2人が保団連理事に選出された。寺嶋洋幸理事長の退任に伴って小澤理事長が新たに選出され、兵頭正道理事長が再選された。社会保障と憲法を守る運動に重点を置いた活動方針案が承

認され、新たな執行体制の下で運動の推進を図ることになる。大会には協会を代表して戸井逸美・富本昌之両副理事長、平尾清司・玉川尚美両理事が参加した。方針案の討論では、戸井副理事長が歯科技工問題の改善について発言。危機打開に向け、協会や保団連が交流会や厚労省交渉を重ねた結果、

同省による歯科技工士の労働実態調査に結びついたことを報告した。その上で、保団連のすべての地域ブロックで同問題の交流会や議員要請、厚労省交渉に取り組むことを呼びかけた。

馬場淳保団連副会長が答弁し、「提案の趣旨に賛同する。保団連の技工所アンケートを力に大いに運動に取り組んでもらいたい」と述べた。

協会はほかに「保険で良い歯科医療の実現を求める」請願署名や堺市長選挙、地区活動、診療報酬改定、非核・平和、医療改善ストップ阻止へ向けたクイズハガキの取り組みについて発言した。

1・25国会行動 要請議員一覧 協会が1月25日の国会行動で要請した議員は次の通り。

大阪府歯科保険医協会がホームページ内に

求人情報サイトを新設

2018.1.15 NEWOPEN

▶協会ホームページから簡単申し込み
スマホからの申し込みも可!

▶費用は掲載料のみ
掲載料は3カ月で1万円!
2月申込(3月15日更新分)までは5千円

スタッフの募集は
大阪府歯科保険医協会

<http://osk-net.org/job/>

*協会は情報提供のみで条件の交渉等は当事者間をお願い致します。



乳幼児のむし歯を大きく報じたスウェーデン・スコネ地方の新聞、2006年8月15日の第一面。当時の発行部数は約13万部

【面談】衆院〈立民〉村上史好、〈共産〉宮本岳志、参院〈共産〉辰巳孝太郎、大門美紀史

【秘書対応】衆院〈自民〉中山泰秀、〈立民〉辻元清美、森山浩行、尾辻かな子、〈民進〉平野博文、〈希望〉樽床伸二、参院〈自民〉松川るい、太田房江、柳本卓治、〈共産〉山下芳生 (敬称略・順不同)

レポート

北欧の歯科医療最前線

12

受診率ほぼ100%

北欧モデルでは、歯科受診率の高さが特徴である。小児はほぼ100%の受診率、成人でも80~90%が歯科医院に通っている「1」。最近の動向として、若年者の受診率が低下していることが指摘されるが「2」、実際のところは80%程度を保っている。日本人の感覚としては依然として高い受診率である。

高い健康観

北欧の中でもスウェーデンは特に健康観が高く、体に良いことは積極的に取り入れようとする素地がある。2006年のある日、地方新聞の一面トップが「親のケア不足で乳幼児のむし歯」と大見出しで飾られた(写真)。日本ではまず考えられないことだと思いきや、乳幼児の齲蝕がこんなに大きく扱われるのか知人に聞くと、歯が全身の健康に影響することが、よく知られており関心が高いからという答えだった。国民が小さい頃から歯科医院に定期的に通い、個別の患者教育を受けるのだから、当然かもしれない。

国民の歯科受診の特徴

20年くらい前までは、小学校に歯科医院が併設されていて、子どもが授業中にも歯科医院を受診できるようなシステムが整備されていた。しかし、現在それは「時代遅れ」らしい。街中の歯科医院へメインテナンスに通うことが通常である。

「2-2-2-2」ルール

家庭でのセルフケアは、ブラッシングが中心で、2-2-2-2のルールが啓蒙されている。これは、一日2回、2分間、歯磨き粉を2センチ、ブラッシング後2時間は齲蝕誘発性の飲食物を摂取しないというルールである。歯ブラシヘッドの大きさは日本のもより大きい。他の欧米諸国に比べると小振りである。歯磨剤はフッ化物1450ppm配合が一般的で、小児用には1000ppmが使われる。その他、5000ppm配合が薬局にて入手可能で、16歳以上のハイリスク者に勧められている。

補助器具として、歯間ブラシ、フロス、断面が三角形のトゥースピックが利用されることもある。特にフッ化物製品の種類が豊富で、洗口剤、錠剤、チューインガムが薬局やスーパーに並んでいる。

参考文献
1. Widström E, Eaton KA. Oral healthcare systems in the extended European union. Oral Health Prev Dent. 2004;2:155-194.
2. Norderyd O, Kochi G, Papias A, Kohler AA, Helkimo AV, Brahm CO, et al. Oral health of individuals aged 380 years in Jönköping, Sweden, during 40 years (1973-2013). I. Review of findings on oral care habits and knowledge of oral health. Swed Dent J. 2015;39(2):57-68.